

第六回 俳句賞「25」作品一覧(記名)

第六回俳句賞「25」作品一覧（記名）

1. 『熟れたるハグ』群馬県立高崎高等学校&群馬県立高崎女子高等学校
2. 『すでに終わって』埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園A
3. 『空に刺さつて』立教池袋高等学校
4. 『ビル集く』洛南高等学校B
5. 『平凡』星野高等学校B
6. 『信号は青』福島県立磐城高等学校B
7. 『四季に色』横浜翠嵐高等学校
8. 『合鍵』山口県立徳山高等学校
9. 『一週間を拾う』福島県立磐城高等学校A
10. 『燃え上がる』岩手県立花巻北高等学校
11. 『むき、そして』埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園B
12. 『揺らぎ』海城高等学校B
13. 『何かの螺子』名古屋高等学校B
14. 『遠霞』岡山県立岡山朝日高等学校
15. 『この手もて』名古屋高等学校A
16. 『三代に語る』埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園C
17. 『つつけば』洛南高等学校A
18. 『北国の子』青森県立弘前高等学校
19. 『自然の時を刻む』海城高等学校A
20. 『トマトケチャップ』星野高等学校A
21. 『T字路』慶應義塾湘南藤沢高等部

1

熟れたるハグ

順番 俳句

群馬県立
高崎高等学校
群馬県立高崎
女子高等学校
作者

- | | | |
|----|-------------------|-------|
| 1 | 風の吹くたびコスモスは門を出る | 久松真綺 |
| 2 | 妹に恋人のゐる九月かな | 久松真綺 |
| 3 | 返信のできないままに秋の蝶 | 植原拓巳 |
| 4 | 秋麗少年トランプットソロ | 香川直寛 |
| 5 | 町工場廃れて今朝の冬の梅 | 植原拓巳 |
| 6 | 木枯らしやつま先立ちのトイプードル | 久松真綺 |
| 7 | かさぶたを絵筆でなぞる冬深し | 白石想一郎 |
| 8 | 彩のなき陽は傾きぬ霜柱 | 香川直寛 |
| 9 | 背の高いゆゑの猫背や冬の雨 | 久松真綺 |
| 10 | 生姜切る祖母美しく老けてゐる | 久松真綺 |
| 11 | クレソンを和へてゐる口軽の友 | 白石想一郎 |
| 12 | 佐保姫や鏡に花を挿して置く | 齋藤葵 |
| 13 | 蹴る球の方へ群れたる蓬かな | 香川直寛 |
| 14 | 風船やパーカー腰に結つてゐる | 植原拓巳 |
| 15 | 春天にクレープ生地を広くかな | 齋藤葵 |
| 16 | 学友の熟れたるハグ風薫る | 白石想一郎 |
| 17 | すつ転んでも走る走る青芝 | 香川直寛 |
| 18 | 幼子のいつしゅん二重あご緑雨 | 久松真綺 |
| 19 | 朝虹や天使急ぎて輪を被る | 齋藤葵 |
| 20 | 深海の清き人魚や夏休み | 齋藤葵 |
| 21 | ががんぼや宇宙船が沈んでゐる | 白石想一郎 |
| 22 | 一睡の覚めて半量のサイダー | 香川直寛 |
| 23 | 新涼の靴に小石の二つ三つ | 久松真綺 |
| 24 | 支那そばをかき込んでゐる良夜かな | 白石想一郎 |
| 25 | 濁り酒餃子には愛が要るのさ | 久松真綺 |

2

すでに終わって

埼玉県立

特別支援学校

坂戸ろう学園

順番 俳句

作者

- | | | |
|----|------------------|-------|
| 1 | 青い夜のバレンタインは消えてゆく | 小埜 優菜 |
| 2 | 戻りゆく恋心また蜃気楼 | 豊島 縁 |
| 3 | 花ぐもり街のひとつを避けてゆく | 茂木 七海 |
| 4 | 飴色の細長い首花明かり | 茂木 七海 |
| 5 | カタカナはかんたんな花ばかり会う | 小埜 優菜 |
| 6 | 引退はすぐ近づいて風車 | 豊島 縁 |
| 7 | 春雨は母に起こされ邪魔されて | 櫻田 咲良 |
| 8 | Uターン気をつけないと暮 | 櫻田 咲良 |
| 9 | 言い訳のくだらないこと夏悩む | 櫻田 咲良 |
| 10 | 角曲がりふしあわせな衣替 | 茂木 七海 |
| 11 | 矢印を未知の世界へ夏心 | 茂木 七海 |
| 12 | すべりひゆ常識どこか壊れたり | 豊島 縁 |
| 13 | げつようび汗も係も水の草 | 小埜 優菜 |
| 14 | 浴びながら厚い日陰の街踊る | 茂木 七海 |
| 15 | 坂道は秋めいてゆくゲームかな | 櫻田 咲良 |
| 16 | 一日の終わりは消えるばった鳴く | 豊島 縁 |
| 17 | 困っている人を見捨てる秋深し | 櫻田 咲良 |
| 18 | 狐火の思いはじけてハート型 | 豊島 縁 |
| 19 | 十一月はすでに終わってしまった日 | 小埜 優菜 |
| 20 | てっぺんの猫のふみふみクリスマス | 櫻田 咲良 |
| 21 | 良い式の日の聖樹おまけつく | 小埜 優菜 |
| 22 | 牛聲の早夜に響くや去年今年 | 豊島 縁 |
| 23 | 二十五分鏡開きを終わらして | 小埜 優菜 |
| 24 | 人間のくちばしはいま春を待つ | 茂木 七海 |
| 25 | 弟は兄よりつぶる冬の海 | 豊島 縁 |

3

空に刺さつて

立教池袋高等学校

順番 俳句

作者

- | | | |
|----|-------------------|-------|
| 1 | 折り鶴をほどいて四角春の雪 | 辻村幸多 |
| 2 | 立春や素数の歳を特に祝ふ | 辻村幸多 |
| 3 | あのビルを折らうよけふの陽炎に | 望月陸玖 |
| 4 | 涅槃会や関節の皺深かりき | 赤松優 |
| 5 | 春の風ばやばやとしたパーカーへ | 小林佳武以 |
| 6 | 花札の手札に酒のなき日永 | 望月陸玖 |
| 7 | 曇天の色の消しゴム風信子 | 辻村幸多 |
| 8 | 吸盤の皮蛸壺に漂ひぬ | 岡部優司 |
| 9 | 毒茸や半紙を日光の零る | 辻村幸多 |
| 10 | 額縁の埃払ひて新茶かな | 小林佳武以 |
| 11 | 滴りぬけだものねぐらを避けて | 望月陸玖 |
| 12 | 釣船の帰路はゆつくり大暑の日 | 赤松優 |
| 13 | 子子や離島の朝のちよつとはやい | 赤松優 |
| 14 | 看板のいつより錆びぬ蓼の花 | 赤松優 |
| 15 | 諍ひの絶えざる厨九月尽 | 望月陸玖 |
| 16 | 崇拜のやうに秋桜しなりたる | 小林佳武以 |
| 17 | 栗落ちぬ空に刺さつてゐる故に | 辻村幸多 |
| 18 | 花野風逸詩に王のひとりごと | 岡部優司 |
| 19 | 図書館の奥のあかるき冬野かな | 辻村幸多 |
| 20 | 拾つた虫は火事に燃えてゐるだらうか | 赤松優 |
| 21 | 裏口の靴の小さし紅葉散る | 小林佳武以 |
| 22 | 餅配遊具に皿の置かれたる | 岡部優司 |
| 23 | 初夢の心地に水を買ひにゆく | 岡部優司 |
| 24 | 耳鋭し歌留多を終へてしまらくは | 辻村幸多 |
| 25 | 群れてなほつめたき寒鯉の軀 | 赤松優 |

4

ビル集く

洛南高等学校B

順番 俳句

作者

- | | | |
|----|------------------|------|
| 1 | 鯉のぼり子の手のひらの芽吹きかな | 塩島彰浩 |
| 2 | おどろけばなほ現るる薔薇の層 | 藤井釉 |
| 3 | 子子の鉢逆さまに水を捨つ | 清水航 |
| 4 | 千羽鶴集めて重し濃紫陽花 | 藤井釉 |
| 5 | 跳ねてきて楽譜濡らしぬ雨蛙 | 塩島彰浩 |
| 6 | 南風吹く航空障害灯の赤 | 中島梨太 |
| 7 | 夕涼の土星に合はす望遠鏡 | 花俣理津 |
| 8 | 木犀や傾いてゆく筆記体 | 藤井釉 |
| 9 | 衣紋掛三日月の額縁となる | 塩島彰浩 |
| 10 | 豊年や鉦山跡に帽子あり | 藤井釉 |
| 11 | サフランを持ちて前歯は欠けてをり | 清水航 |
| 12 | なにもものも今とんぼうの翅の中 | 藤井釉 |
| 13 | 木の実落つおさげの髪ふるへをり | 清水航 |
| 14 | しんしんと革靴光る柿落葉 | 清水航 |
| 15 | ビル集く空に蜜柑を投げ上げぬ | 花俣理津 |
| 16 | 雨は垂直に勤労感謝の日 | 花俣理津 |
| 17 | 蒼穹の鷹透明な炎得て | 花俣理津 |
| 18 | 網代簀や魚のはやさも波のもの | 藤井釉 |
| 19 | スケートの父の浮き腰なるを抜く | 中島梨太 |
| 20 | 水仙のほつれて針の音の止む | 中島梨太 |
| 21 | クロッカス母の鼻歌窓越しに | 清水航 |
| 22 | まるき手をまるく握りて風光る | 中島梨太 |
| 23 | 野遊や靴底にある泥の顔 | 清水航 |
| 24 | 夏近しいくつかの名を呼ばぬまま | 花俣理津 |
| 25 | にはたづみ色づくしやぼん玉の群れ | 藤井釉 |

5

平凡

星野高等学校B

番号	俳句	作者
1	先輩を奪っていった春疾風	藤枝 杏里
2	君からの第二ボタンや春の夢	佐野 史絵那
3	卒業や置いてけぼりの一歳差	原口 愛梨
4	問題は食うか食わぬか桜餅	原口 愛梨
5	春塵へ混じり実家へ帰ります	藤枝 杏里
6	目の前を過ぎた始発や夏の暁	佐野 史絵那
7	扇風機異常発生宇宙人	原口 愛梨
8	アスパラの肉巻きインターハイの朝	中村 満里奈
9	サイダーの音絡みつく畳かな	中村 満里奈
10	カップルの後ろに並ぶかき氷	中村 満里奈
11	揚花火残るがごとき背中かな	中村 満里奈
12	天使の輪さらしさらさら髪洗う	藤枝 杏里
13	サイダーのボトム膨らむ偏頭痛	藤枝 杏里
14	银杏散る抜き足差し足下校道	佐野 史絵那
15	喉嚢らす目覚まし時計冬の朝	佐野 史絵那
16	引きこもる十五の夜や鯨の胃	藤枝 杏里
17	ちゃんちゃんこ祖母のかおりに包まれて	原口 愛梨
18	ぐみの実をとって枯れ木のごとき腕	藤枝 杏里
19	初夢や縁起物より君の顔	佐野 史絵那
20	郵便も置き配にして寝正月	佐野 史絵那
21	母さんや新年会の腹踊り	佐野 史絵那
22	黒豆をつまんで語る父と叔父	佐野 史絵那
23	七輪の餅ふっくりと逃げ出した	原口 愛梨
24	ネクタイの曲がりたる父寒の入	佐野 史絵那
25	秒針に急かされて食う雛あられ	中村 満里奈

6

信号は青

福島県立
磐城高等学校

順番
俳句

作者

- | | | |
|----|-----------------|------|
| 1 | 春先や巫女の袴の緑色 | 小野心愛 |
| 2 | 飛べぬなら空を落とさん花曇 | 榎本佳歩 |
| 3 | 城跡へ続く裏道春の草 | 小野心愛 |
| 4 | 青空が寂しくなりて花筵 | 赤津拓哉 |
| 5 | 夏めくや抜錨の音眼前に | 小野結大 |
| 6 | 結末を知りながら買ふ金魚かな | 関根杏華 |
| 7 | 狂熱に腹の膨るる黒蟻 | 小野結大 |
| 8 | 駅遠し歩幅狭まる日陰かな | 佐藤昊世 |
| 9 | サイダー溢る君が隣の帰り道 | 赤津拓哉 |
| 10 | 心臓かっさらわれて驟雨かな | 関根杏華 |
| 11 | 戦況を伝えるテレビ終戦日 | 小野心愛 |
| 12 | 秋渴きおやつはマクドナルドにて | 小野心愛 |
| 13 | 腕時計失くして広き花野なり | 関根杏華 |
| 14 | 大好きを伝えそびれて鰯雲 | 榎本佳歩 |
| 15 | 傘の露はらひてさきに青とんぼ | 関根杏華 |
| 16 | 太陽を前に干し柿の胎動 | 小野結大 |
| 17 | 身にしむや他人の犬の嗶れ声 | 佐藤昊世 |
| 18 | 初氷踏み抜く今日も同じ道 | 赤津拓哉 |
| 19 | 焼き肉の煙満たされ行く年よ | 小野結大 |
| 20 | 寒灯や知り合いの古本に会ふ | 小野結大 |
| 21 | 貨物船通り過ぎたり初日の出 | 小野心愛 |
| 22 | 凧やしづかに泣いてゐる空き家 | 榎本佳歩 |
| 23 | 電線に絡むオリオン信号は青 | 佐藤昊世 |
| 24 | 冬深しあの星も寄り添つてゐる | 榎本佳歩 |
| 25 | カンバスの傷はそのまま卒業す | 関根杏華 |

7

四季に色

横浜翠嵐高校

順番
俳句

- | | | |
|----|------------------|-------|
| 1 | 新しいページへ飛んで青葉風 | 河合菜々子 |
| 2 | 草いきれバッテリー二人守備二人 | 福田彩月 |
| 3 | ラムネ瓶かざして見たる空の青 | 新堀笙子 |
| 4 | 算盤をご破算にして扇風機 | 福田彩月 |
| 5 | 向日葵に真正面から励まされ | 福田彩月 |
| 6 | 草の香の移るTシャツ秘密基地 | 千葉真之介 |
| 7 | 新涼や小さな嘘を吐いた母 | 河合菜々子 |
| 8 | 砂色のシューズ一列秋の風 | 河合菜々子 |
| 9 | 部室棟歩めば軋み法師蟬 | 新堀笙子 |
| 10 | 靴の泥そのまま残暑まとうまま | 相原乙葉 |
| 11 | おおつぶの葡萄のような目をしたる | 河合菜々子 |
| 12 | てのひらに手榴弾みたいなぶどう | 勝浦竜青 |
| 13 | ネット弾きボール飛び出す秋の空 | 新堀笙子 |
| 14 | 秋澄むや騎馬の上から見る校庭 | 相原乙葉 |
| 15 | 赤蜻蛉背面跳びの腹を行く | 相原乙葉 |
| 16 | 银杏黄葉のせてブランコ夜の風 | 千葉真之介 |
| 17 | 電線にひっかかりたる月滲む | 新堀笙子 |
| 18 | 満月のふるればゆるる水面かな | 相原乙葉 |
| 19 | 病棟の手摺の温度冬近し | 河合菜々子 |
| 20 | バイク発つ音を布団の中で聞く | 福田彩月 |
| 21 | 冬晴れの早朝にしか聞けぬ音 | 勝浦竜青 |
| 22 | 散ってくる落葉を掴むっていう遊び | 勝浦竜青 |
| 23 | 年の夜やクラスメイトに千羽鶴 | 相原乙葉 |
| 24 | 地下鉄の窓に落書き寒の雨 | 河合菜々子 |
| 25 | 枯草の中にきのうの雨雫 | 千葉真之介 |

8

合鍵

山口県立徳山高
等学校

順番 俳句

作者

- | | | |
|----|------------------|------|
| 1 | 恋終わらせ蜜柑の薄皮を噛む | 増野月麦 |
| 2 | 風の吹くはうへ枯野のたふれけり | 大迫悠真 |
| 3 | ダイヤモンドダスト赤子の産声 | 福田裕吾 |
| 4 | 電卓に埃は残り大晦日 | 福田裕吾 |
| 5 | 参道に今川焼のかほりあり | 福田裕吾 |
| 6 | にゃあごろの日向ぼっここの幌の上 | 今元春樹 |
| 7 | 金色の蛇口にそつと水温む | 今元春樹 |
| 8 | 病室より花の便りをツイート | 今元春樹 |
| 9 | まだ顔も知らぬ隣人春の昼 | 増野月麦 |
| 10 | 日替わりのメニューボードや目借時 | 大迫悠真 |
| 11 | 篝火花ひらく副校長通る | 大迫悠真 |
| 12 | 酒屋や錆びつく螺旋階段に | 福田裕吾 |
| 13 | 鈴蘭がゆれる惑星ふるえている | 大迫悠真 |
| 14 | くびすじをみてもらうための香水 | 増野月麦 |
| 15 | 隣人は苺ミルクのやうな息 | 増野月麦 |
| 16 | 蜘蛛の国糸いつぼんのひかりかな | 大迫悠真 |
| 17 | 合鍵の匂ひの汗を握りしめ | 増野月麦 |
| 18 | 永遠にまんぼう迷子のまま泳ぐ | 今元春樹 |
| 19 | ビル群の奥から秋の香り吹く | 福田裕吾 |
| 20 | 爽やかや独逸生まれのハーモニカ | 福田裕吾 |
| 21 | スクランブル交差点螻蛄を無視 | 福田裕吾 |
| 22 | 残業のためいき秋の風になる | 大迫悠真 |
| 23 | DNA断つ詠月のラボラトリー | 今元春樹 |
| 24 | 草木零落す門扉は閉ぢきらぬ | 今元春樹 |
| 25 | 人過ぎて人の風ふく秋灯 | 大迫悠真 |

9

一週間を拾う

福島県立磐城高等学
校

順番
俳句

作者

- | | | |
|----|---------------------|-------|
| 1 | 薄氷を剥がすやう起きる月曜日 | 村井沙紀 |
| 2 | 朝寝する土曜の朝のアデイショナルタイム | 吉田駿作 |
| 3 | 向日葵や今日こそ返すおはよう | 齋藤和穂 |
| 4 | 風光る僕らはクラムボンの子ども | 高橋ひより |
| 5 | 春うらら制服は新品のまま | 齋藤和穂 |
| 6 | 初釜や寒さほどけて火曜かな | 小野愛美 |
| 7 | 落穂なり土曜の朝の通学路 | 村井沙紀 |
| 8 | 大寒や模試愚痴る友とらあめん | 吉田駿作 |
| 9 | 手袋に祖父の名のある捨案山子 | 坂本佳樹 |
| 10 | 課題終えもうサザエさん？秋の夕 | 吉田駿作 |
| 11 | 号笛の響く夏空月曜日 | 小野愛美 |
| 12 | 昼の月黒土の舞うグラウンド | 坂本佳樹 |
| 13 | 持久走折り返し冬空の雲 | 齋藤和穂 |
| 14 | はらみ猫戻る火曜ににじゅうまる | 村井沙紀 |
| 15 | 花は盛り寄せ書きは青色のペン | 高橋ひより |
| 16 | 校庭に野球部の声風青し | 坂本佳樹 |
| 17 | 金玉糖まだ乾かない水曜日 | 小野愛美 |
| 18 | 木曜日部活で貰った水羊羹 | 小野愛美 |
| 19 | 早足で生徒帰るや秋深し | 坂本佳樹 |
| 20 | 金曜は海の日父の帰りし日 | 村井沙紀 |
| 21 | 電気屋のピアノに指紋春の宵 | 高橋ひより |
| 22 | 餌忘れかぶと虫硬く火曜日 | 吉田駿作 |
| 23 | 春の宵テレフォンカードのつやつや | 高橋ひより |
| 24 | 山積みの参考書あり夜食喰ふ | 坂本佳樹 |
| 25 | 余力あり月の光にペンを置き | 齋藤和穂 |

10

燃え上がる

岩手県立花巻北
高校

順番
俳句

作者

- | | | |
|----|------------------|------|
| 1 | 春眠や呪文のごときリスニング | 平賀瑛汰 |
| 2 | 蛇穴を出づ甘たるき我が渾名 | 千田大和 |
| 3 | 全身で階段登る子や土筆 | 千田大和 |
| 4 | 端つこの欠けたる櫓をしまひけり | 千田大和 |
| 5 | 花の冷大弓担ぎ登校す | 渡辺瑠偉 |
| 6 | 唐揚げを食らふ妹夏の夕 | 葛巻蓮 |
| 7 | 課題終へ飲み干すソーダ水ぬるし | 高橋颯 |
| 8 | 裏アカのアイコン変へる夜の秋 | 千田大和 |
| 9 | 秋晴やバンカラ服の返し縫ひ | 千田大和 |
| 10 | 混血の君の長き名運動会 | 千田大和 |
| 11 | 水路覗く小さき狸を追ひかけて | 千田大和 |
| 12 | 雪の田や静かにひらくバスのドア | 千田大和 |
| 13 | 十字架が映える君なり雪明かり | 葛巻蓮 |
| 14 | 肉まんは旨しお前は減量中 | 高橋颯 |
| 15 | 後悔も憂ひも弾くオリオン座 | 平賀瑛汰 |
| 16 | 細雪肩までつかる露天風呂 | 渡辺瑠偉 |
| 17 | ポンプより垂れる灯油や冬深し | 千田大和 |
| 18 | 湯気立てる薬缶に九頭身の僕 | 千田大和 |
| 19 | ストーブを消すや一旦燃え上がる | 千田大和 |
| 20 | 注連縄をくくる指先もたついて | 平賀瑛汰 |
| 21 | 太箸にいくらを三つ挟みたり | 千田大和 |
| 22 | 年玉が減る焼芋を売らないと | 渡辺瑠偉 |
| 23 | 雪しまき駅から遠きしやぶしやぶ屋 | 葛巻蓮 |
| 24 | 肩車嫌がるいとこ睦び月 | 高橋颯 |
| 25 | 空き箱で作る飛行機春近し | 千田大和 |

11

むき、そして

順番
俳句

作者

1 花の雨折り紙は友だちになり

吉瀬 千咲

2 古池の一枝や春水の音

野呂 宥依那

3 逃水は波野書いて橋の下

吉瀬 千咲

4 海中の音符のように露は夏

佐藤 絵梨花

5 学生の夢を忘れる夏木立

吉瀬 千咲

6 不思議な蚊おかしな音を閉じ込める

黒崎 琉之介

7 夏の火へ見えるようにと光あり

野呂 宥依那

8 大好きな土の子どもや秋の海

黒崎 琉之介

9 空があり虫の緑の声くもる

菊池 智喜

10 奥空へ思い描いた桃の窓

佐藤 絵梨花

11 文化の日友だちは自転車乗れる

黒崎 琉之介

12 笑顔ため諦めないでもん旅

佐藤 絵梨花

13 もみじ川色褪せるのもいい音色

佐藤 絵梨花

14 母のこの車に乗れば冬の朝

野呂 宥依那

15 山眠る初めて見たら坂をゆく

菊池 智喜

16 冬なれば新しい月来たる少女

吉瀬 千咲

17 お正月お正月まかるん空

菊池 智喜

18 大寒やがらがらとのどわらう

菊池 智喜

19 行く人は奥を眺める縞模様

菅井 陽生

20 朝になるときはつかれの陽が暮れて

菅井 陽生

21 山登り迷った道を教えられ

黒崎 琉之介

22 あにさん家生活へおでかけ日

野呂 宥依那

23 住宅の実は育ちがち後なくす

菅井 陽生

24 おみなこの希望をとってミルクかな

吉瀬 千咲

25 鳥鳥は行ったり戻って空を飛ぶ

菅井 陽生

埼玉県立

特別支援学校

坂戸ろう学園

12

揺らぎ

B 海城高等学校

順番
俳句

作者

1 なつかしきとはつちかぜの滑走路

蔣騰

2 春時雨伏してLINEのバイブ待つ

中村治樹

3 きふよりカレーの濃くて若楓

柿木晴翔

4 考えるのはあとにして髪洗ふ

蔣騰

5 目が覚めてキャンプの土の冷えほのか

濱野佑太

6 砂散らすウミガメの子や空の藍

濱野佑太

7 地球儀の軸揺らぎたり白芙蓉

濱野佑太

8 八月の水の平らかなることよ

蔣騰

9 蟋蟀や都の在りし野に骸

武藤龍之介

10 たうがらし雨にこはれてゆく途中

蔣騰

11 知床に枝踏む音や山粧ふ

柿木晴翔

12 牛井をがつと掻き込む夜寒かな

武藤龍之介

13 頬赤き団栗帽の描く小春

中村治樹

14 枯萩の野に石を呑むちからあり

蔣騰

15 初氷みてふるさとの田を思ふ

柿木晴翔

16 寒空やスープに浮かぶ油とる

濱野佑太

17 フクロウに後光の差して夜を飛ぶ

中村治樹

18 靡かせて髪こそばゆし初御空

武藤龍之介

19 元日はゆつくり歩くための日ぞ

蔣騰

20 向きあひて少食同士ゆきの暮

蔣騰

21 雪催湖心の塔のときざむ

武藤龍之介

22 焼きあげてナンぷつくりと白梅香

蔣騰

23 改札は一本足や風光る

柿木晴翔

24 クッキーの型をはめるや養花天

濱野佑太

25 春のはへ拉麵店主との静寂

蔣騰

13

何かの螺子

B 名古屋高等学校

順番 俳句

作者

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|----------------|-----------------|--------------|---------------------------------|----------------|-----------------|------------------|-------------|----------------|-----------------|----------------|-------------|----------------|----------------|---------------|--------------|---------------|---------------|-------------|---------------|-------------|-------------|---------------|---------------|
| 25 | 24 | 23 | 22 | 21 | 20 | 19 | 18 | 17 | 16 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 駅伝や治らぬ脊椎を思ふ | 獅子舞に咬まるる列に並びたり | 伊勢海老の棘をさはつてゐる婦人 | 買初の姉は人形抱きにけり | 元旦や扇の如き螺旋階 <small>らせんかい</small> | 湯冷めなる廊下の番を任されて | 遠火事や何かの螺子の落ちてをり | 一茶忌のたこ焼きのたこ飛び出をる | 天狼や口内炎に舌の触れ | 昆布酢の昆布反りゐる小春かな | 山茶花や髪を染めなくなりし祖母 | 波郷忌のむざと割りたる卵かな | 秋の蜂顎に水の艶めきぬ | 文化の日太刀に螺鈿の猫のゐて | ペンキ屋のジーンズ破れ野分晴 | 秋彼岸ボン酢に皿の籠の透く | 吊草にほのかな熱や秋微雨 | 鴟鳴くや銀輪の灯の薄れたる | 虫籠やオセロの盤に駒足らぬ | 鰯雲友の財布の膨れをり | 爽やかや枕カバーの樹の刺繍 | 乳液の項に余る小鳥かな | 龍淵に潜む橋の手摺に鷺 | 秋うらら窓に子犬の舐めし跡 | 芋虫や花の模様のヨガマット |
| 幸村遥都 | 服部亮汰 | 堀内晴斗 | 幸村遥都 | 堀内晴斗 | 幸村遥都 | 服部亮汰 | 服部亮汰 | 加納輝一 | 幸村遥都 | 加納輝一 | 幸村遥都 | 幸村遥都 | 加納輝一 | 幸村遥都 | 堀内晴斗 | 服部亮汰 | 幸村遥都 | 幸村遥都 | 加納輝一 | 幸村遥都 | 幸村遥都 | 加納輝一 | 幸村遥都 | 幸村遥都 |

順番 俳句

作者

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|---------------------------------|----------------|------------------|-------------------------------------|-----------------|----------------|----------------|-------------|--------------|-----------------|---------------|---------------|------------------|-----------------------------------|----------------|---------------|------------------|-----------------|---------------|--------------|-----------------|--------------|---------------|---------------|----|----|----|--|
| 25 | 24 | 23 | 22 | 21 | 20 | 19 | 18 | 17 | 16 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 順番 | 俳句 | 作者 | |
| 笛吹の笛ふき止みぬ遠霞 | 紅椿深煎りコーヒー挽く朝 <small>あした</small> | ペンライト宙に浮き立つ春の闇 | 寒晴やトランペットのチューニング | ヴィーナスもただの石塊梅 <small>いしくれ</small> 早し | 雪うさぎ飛び石ひとつとばしけり | 温水に変はるあはひや冬木の芽 | シェイカーの蓋固きこと年の酒 | 初詣こはごは覗き見る祠 | 妹の寢息やそつと年来たる | 賀状書くたしなむことの色いろと | 魚市場もうひとめぐり松葉蟹 | 着ぶくれて人声とほき朝の駅 | 木枯らしや割れし定規を買ひ替へに | 冬服やひとの骸 <small>むくろ</small> を燃やすてふ | 鶴啼くや友逝きし日の空のあを | 点滴のわれに寄り添ふ冬林檎 | 鳴り止まぬ兄のエチュード日向ぼこ | 映画またキスシーンなり蜜柑剥く | 枝はみな天を目指せり神の旅 | 涙痕のゆつくり乾く小春風 | ぎゆつと抱く祖父の膝もと薄の穂 | 星流るスペルの違ふ単語帳 | 繰り返す仮定法過去いわし雲 | 八月やモノクロームの人の群 | | | | |
| 辻颯太郎 | 葛間文香 | 高旗ゆりあ | 高旗ゆりあ | 辻颯太郎 | 那須颯太 | 葛間文香 | 葛間文香 | 那須颯太 | 吉田有希 | 吉田有希 | 那須颯太 | 辻颯太郎 | 辻颯太郎 | 辻颯太郎 | 那須颯太 | 吉田有希 | 高旗ゆりあ | 辻颯太郎 | 辻颯太郎 | 吉田有希 | 高旗ゆりあ | 葛間文香 | 高旗ゆりあ | 葛間文香 | | | | |

岡山県立岡山
朝日高等学校

15

この手もて

A 名古屋高等学校

順番 俳句

作者

- | | | |
|----|-----------------|-------|
| 1 | 吊り革の穴より夜を見る師走 | 鈴木哲平 |
| 2 | 矯正の銀のはにかむ聖菓かな | 三浦英雄 |
| 3 | さう美味くない店で佳い小晦日 | 鈴木哲平 |
| 4 | もう使はぬテレビの裏や掃納 | 佐々木太亮 |
| 5 | 殺陣好きの次兄が啜る晦日蕎麦 | 佐々木太亮 |
| 6 | 歳晩の祖母の部屋より猫の抜け | 佐々木太亮 |
| 7 | 去年今年生とは生まれ落つること | 鈴木哲平 |
| 8 | 「俺」の字の撥ねの大きな初寝覚 | 佐々木太亮 |
| 9 | 四方拝ミサイルはよく海に落つ | 佐々木太亮 |
| 10 | 初刷のバイク横切る大鳥居 | 三浦英雄 |
| 11 | 唇に漏れ数の子の著く黄金 | 小田健太 |
| 12 | 旅客機の腹は初景色の余白 | 三浦英雄 |
| 13 | 兵役に通る身体へ初湯掛く | 三浦英雄 |
| 14 | 田作の一つ一つの目にひかり | 鈴木哲平 |
| 15 | ちやぶ台にワイングラスの跡狗日 | 鈴木哲平 |
| 16 | AIの声に従ふ初電車 | 鈴木哲平 |
| 17 | 先生の筆の龍めく賀状かな | 三浦英雄 |
| 18 | 駅伝の腕すれすれに旗の沸く | 三浦英雄 |
| 19 | 初富士を背に東北の人帰る | 鈴木哲平 |
| 20 | 春永の腕に卵を落としいけり | 佐々木太亮 |
| 21 | 嬰の掌の札に収まる歌がるた | 小田健太 |
| 22 | 礼者去る牡丹鸚哥に語りかけ | 鈴木哲平 |
| 23 | 伊勢海老の残る頭の虚ろなる | 小田健太 |
| 24 | 薺摘む中吉を引くこの手もて | 佐々木太亮 |
| 25 | 老犬の歩みに合はせ鳥総松 | 鈴木哲平 |

三代に語る

順番 俳句

埼玉県立
特別支援学校
坂戸ろう学園
作者

- | | | |
|----|-----------------|--------|
| 1 | ばらばらな先生たちは晴れて梅 | 藤原 希乃 |
| 2 | 生ハムは刀まばらにして遅日 | 稲葉 汐音 |
| 3 | 春道のめがねの男パン落とす | 小沢 陸翔 |
| 4 | ピアノ線晴れた目から春の顔 | 藤原 希乃 |
| 5 | 報われた空の気持ちや山笑う | 松田 星音 |
| 6 | 身にしみてふてくされる日卒業す | 小沢 陸翔 |
| 7 | 目をそらし願う時間の花の雨 | 松田 星音 |
| 8 | 水無月や折り紙の花街歩き | 金子 亮太 |
| 9 | 返り梅雨ドアの手前の指の爪 | 藤原 希乃 |
| 10 | 草はこの京都府について風薫る | 稲葉 汐音 |
| 11 | 雨止んで歩いて行って歌は秋 | 金子 亮太 |
| 12 | 笑い出す木の森たちの遠花火 | 松田 星音 |
| 13 | ペン先の波汲むように秋深む | 稲葉 汐音 |
| 14 | また一つ曲がりくねった紅葉かな | 佐々木 彩乃 |
| 15 | 本棚の走れメロスや神渡し | 稲葉 汐音 |
| 16 | 生徒らの小声から立冬の月 | 藤原 希乃 |
| 17 | 冬すみれ学校通う憂さ晴らし | 佐々木 彩乃 |
| 18 | 真っ白な砂利真っ白な冬の風 | 金子 亮太 |
| 19 | 霧道のきつねの子から笛の影 | 小沢 陸翔 |
| 20 | 姿消す咳止まらなく歩きけり | 佐々木 彩乃 |
| 21 | 三代に語り継がれるけさの雪 | 佐々木 彩乃 |
| 22 | むささびの狂う手の静電気かな | 松田 星音 |
| 23 | ゆく年のいぬの山にんげんの川 | 金子 亮太 |
| 24 | 暗い森ひとりの熊の初詣 | 小沢 陸翔 |
| 25 | 福寿草空を見上げる記憶あり | 佐々木 彩乃 |

17

つつけば

洛南高等学校A

順番
俳句

作者

- | | | |
|----|-------------------|-------|
| 1 | 春といふおほきな鳥に抱かれて | 富嶋大晃 |
| 2 | 鷹鳩と化して七番線闊歩 | 古田優太郎 |
| 3 | 竜天に登る鉄路は湿りつつ | 田村典 |
| 4 | つばくらの尾の鋭さに雲二つ | 田村典 |
| 5 | 花冷や小さき喉の動くとき | 富嶋大晃 |
| 6 | チューリップに蜂や銀河に星ひとつ | 田村典 |
| 7 | 薫風やもつとも遠き島に雨 | 富嶋大晃 |
| 8 | がらがらと鉛筆削る沖繩忌 | 古田優太郎 |
| 9 | 天国に地面はなくて棕櫚の花 | 田中涼太 |
| 10 | 汗ばめる手で汗ばめるスフィックスを | 古田優太郎 |
| 11 | 雪溪にからりと天の底映る | 富嶋大晃 |
| 12 | 鼻唄の小雨に濡れる夜焚かな | 田中涼太 |
| 13 | 跳箱を離れ中指秋夕焼 | 古田優太郎 |
| 14 | 秋蝶や砂山少しづつ崩す | 古田優太郎 |
| 15 | 稔田や指笛に雲ざわめきて | 田村典 |
| 16 | 鹿鳴きて南京錠に鏽の浮く | 田中涼太 |
| 17 | 朝寒の湯気やはらかく頬を打つ | 田中涼太 |
| 18 | 秋風や地震のはじまる潦 | 富嶋大晃 |
| 19 | 嘴でつつけば火事となつたらし | 古田優太郎 |
| 20 | 音をみな弾き返して冬の滝 | 田中涼太 |
| 21 | 鷹一羽空へ真白き波頭として | 富嶋大晃 |
| 22 | 砥部焼は潮の匂ひや年の市 | 田中涼太 |
| 23 | 細雪日暮に人をおぼえけり | 田村典 |
| 24 | おとがひに市電の揺れや寒北斗 | 富嶋大晃 |
| 25 | 春隣帆布の鞆張りつめて | 富嶋大晃 |

北国の子

青森県立弘前
高等学校

順番
俳句

作者

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|-------------|--------------|--------------|----------------|----------------|---------------|------------------|---------------|----------------|----------------|---------------|---------------|-----------------|--------------|----------------|----------------|---------------|------------------|-------------|---------------|--------------|---------------|----------------|----------------|
| 25 | 24 | 23 | 22 | 21 | 20 | 19 | 18 | 17 | 16 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 北国の子を育みて冬終る | 雪野原幼心に駆けた日々 | 人肌の夜鳴饅飩に救われて | 粉雪や火葬場を出る足重く | 山眠る仮小屋の戸も錆びつけり | 雪明りに沈みし帰路の長きこと | 冬麗ら一つは姉に残すチョコ | ゲレンデに一人ボーゲンの気まぜさ | 雪の華見上げる空に卯時の陽 | 冬ぬくしミルク九割のコーヒー | かまくらに満員だよの返事あり | 黒豆をつつきて寿命から逃る | 除夜の鐘百人打目の遠きかな | シャンプーの匂ひさせたり冬の星 | 年忘居酒屋に置き去りの熱 | 玩具屋やボーナス握る厳父の手 | 年の暮エンターキーは忙しなく | 休息の無き除雪車や午前二時 | 柚子湯へと今日の孤独を溶かし込む | 喧嘩後の夜道に一人鎌鼬 | 濡れ雪や本を庇いて進み行く | 初氷割らぬやうにと回り道 | 風の吹く城の静けさ小春かな | お小言や噛み締められず滑る葱 | 立冬に漕ぐ自転車は音を上げて |
| 福眞颯子 | 藤田翔琉 | 福眞颯子 | 藤田翔琉 | 山本琉碧 | 小島わこ | 小島わこ | 三上莉礼 | 中村績寿 | 福眞颯子 | 山本琉碧 | 三上莉礼 | 大中廣太郎 | 小島わこ | 三上莉礼 | 大中廣太郎 | 大中廣太郎 | 山本琉碧 | 三上莉礼 | 藤田翔琉 | 福眞颯子 | 福眞颯子 | 中村績寿 | 小島わこ | 中村績寿 |

19

自然の時を刻む

A 海城高等学校

順番 俳句

作者

- | | | |
|----|---------------------|-------|
| 1 | 刃先より木屑舞ひけりほたる草 | 治郎丸哲平 |
| 2 | 脱がしたる靴に銀杏潰れをり | 宮下遼大 |
| 3 | めいつぱい刷毛を一振り秋の雲 | 遠藤泰介 |
| 4 | 菓子片の本より潰れ夜長かな | 天野大喜 |
| 5 | 山間に朱色重ねる秋夕焼け | 遠藤泰介 |
| 6 | 噫して一時帰国の友去れり | 天野大喜 |
| 7 | 朝日照り水膜帯びる初氷 | 遠藤泰介 |
| 8 | 店先にDON'T DRINKクリスマス | 山本佳和 |
| 9 | 元朝や錆びし小舟のつながれて | 遠藤泰介 |
| 10 | 右に寄る書初の文字持ち上げり | 宮下遼大 |
| 11 | 凍雲を映す川面の鈍色に | 治郎丸哲平 |
| 12 | 冬の鳩水飛ばしつつ水飲めり | 治郎丸哲平 |
| 13 | 旅終はり窓から盛る薄紅梅 | 深井直樹 |
| 14 | 物置を出し恋猫の舌小さく | 山本佳和 |
| 15 | 春灯や半紙にはねし墨にじみ | 遠藤泰介 |
| 16 | 四月馬鹿誘ひ文句に返事なし | 宮下遼大 |
| 17 | 亀鳴くや逆断層は白黒に | 天野大喜 |
| 18 | 春雨に潤みし土の匂ひかな | 治郎丸哲平 |
| 19 | 葉桜や手水舎の音大きくて | 深井直樹 |
| 20 | 紫陽花や人はしづかに極楽寺 | 山本佳和 |
| 21 | 皺深き射的のおばば刺蛾舞ふ | 宮下遼大 |
| 22 | 干からびし海月にかするボールかな | 遠藤泰介 |
| 23 | 林道の土湿りをる蟬しぐれ | 治郎丸哲平 |
| 24 | 夕焼けを背に「もう絶交だよ」 | 深井直樹 |
| 25 | 影だけは平等に濃き早かな | 治郎丸哲平 |

20

トマトケチャップ

星野高等学校A

順番
俳句

作者

- | | | |
|----|-------------------|------|
| 1 | まだ知らぬ旅への支度春の宵 | 伊藤音々 |
| 2 | 白椿紅く染めてはもらえずに | 伊藤音々 |
| 3 | 開け閉めを繰り返す子やランドセル | 伊藤音々 |
| 4 | 屋根裏に鼻歌二つ猫の恋 | 今村美月 |
| 5 | 消しゴムの角の鋭さ春の暁 | 伊藤音々 |
| 6 | 制服の糊の硬さや桜道 | 伊藤音々 |
| 7 | 学生を上書き保存したる春 | 伊藤音々 |
| 8 | オムレツのケチャップぐちゃり春の果 | 金光舞 |
| 9 | 半分に割り損ねたりアイスバー | 今村美月 |
| 10 | 枝豆や選別される子どもたち | 伊藤音々 |
| 11 | 胡瓜食う曲がった道もあってよい | 伊藤音々 |
| 12 | 僕たちのひびに染み入るソーダ水 | 伊藤音々 |
| 13 | 思い出をラムネの瓶に詰める夜 | 砂長陽咲 |
| 14 | 夏の日 of 最高気温君の笑み | 今村美月 |
| 15 | 星明かり数え寝付けぬ夜長かな | 金光舞 |
| 16 | 幼子の興味弾けて鳳仙花 | 今村美月 |
| 17 | 秋澄めり昨日に続き今日が来る | 伊藤音々 |
| 18 | 毬栗の中身は丸く優しいの | 伊藤音々 |
| 19 | 翳雲白って二百色あんねん | 金光舞 |
| 20 | 行く秋やまた遠くなる青き空 | 伊藤音々 |
| 21 | 先客の足跡のあり霜柱 | 伊藤音々 |
| 22 | 耳たぶを冷凍しゆく北風 | 伊藤音々 |
| 23 | 買初や日用品の並ぶメモ | 伊藤音々 |
| 24 | 消防車ぽつんと赤い雪の街 | 砂長陽咲 |
| 25 | ぼうぼうと夜の叫びや冬の月 | 砂長陽咲 |

21

T字路

慶應義塾湘南
藤沢高等部

順番 俳句

作者

- | | | |
|----|-----------------|------|
| 1 | 秋湿り山から下りてくる雲は | 山本航生 |
| 2 | 線香花火好きなのと言ってたね | 三浦愛咲 |
| 3 | 潮薫る夜若芽絡む後足 | 別所遥翔 |
| 4 | 大海の砂の味して浅蜷汁 | 白濱遼平 |
| 5 | 日曜の目覚まし嘲る薄暑光 | 別所遥翔 |
| 6 | 黒ずんだ神籤の箱の淑気かな | 白濱遼平 |
| 7 | 鉄パイプだけのリフトに氷柱立つ | 白濱遼平 |
| 8 | 観光地君はどこから落とし水 | 松見碧生 |
| 9 | 稲穂波越後の大地覆うかな | 森谷美月 |
| 10 | 水御籤結ぶ代わりに秋風を | 松見碧生 |
| 11 | T字路のy軸方向に鱗雲 | 三浦愛咲 |
| 12 | 秋の雨玉砂利さえも兼六園 | 松見碧生 |
| 13 | 秋雨や石段坂打ち幽玄なり | 森谷美月 |
| 14 | ごましおに赤い髪留め黒部の秋 | 内海靖子 |
| 15 | 秋雨の走り抜けるぞ石川門 | 森谷美月 |
| 16 | タバコ屋の傍に小さな松飾る | 白濱遼平 |
| 17 | やわらかな前髪下げたて秋の彼 | 三浦愛咲 |
| 18 | 棒切れを振り回す友年の暮 | 山本航生 |
| 19 | 餅雪の西の祝典テレビ越し | 別所遥翔 |
| 20 | 冬休み「宿題やるか」と日が巡る | 内海靖子 |
| 21 | 寄せ鍋や野菜を避けて動く箸 | 白濱遼平 |
| 22 | 満月やスマホかざすと霧の中 | 内海靖子 |
| 23 | 駅メロの響いて風を冷やす夜 | 白濱遼平 |
| 24 | 落葉落ち静かに土へ還る音 | 白濱遼平 |
| 25 | 寝台より映る驟雨の波風よ | 山本航生 |